



2023

昭和信用金庫の現況

令和4年度 事業のご報告

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)



 **昭和信用金庫**

昭和信用金庫は90年前

有限責任昭和信用組合として設立されました。

昭和金融恐慌に起因する不況によりやく曙光が差し、経済復興が進展し始めていた時期です。

しかし、長年の不況の痛手を受け、資金難にあえぎ、復興の波に乗れない多くの中小商工業者がいました。

当金庫は、地元商工業者がその窮状を脱するため、「相互扶助」「共存共栄」を目的とした金融機関として、地元の皆さまによって設立されました。

日本経済はいま

感染症の影響による行動制限の解除や

海外からの観光需要の回復に伴い、緩やかに持ち直しています。

しかし、人手不足や事業承継といった

コロナ禍以前からの問題に加え、

物価上昇や「ウイズコロナ」への対応など、

中小企業は厳しい課題に直面しています。

昭和信用金庫は「お客さまの役に立つ」を掲げ、

この街で事業・生活を営む皆さまを

支援してまいります。

大好きな街 応援します

昭和信用金庫「SDGs宣言」

当金庫は、令和4年6月に「SDGs宣言」を策定しています。創業の理念である「相互扶助」「共存共栄」の精神は「SDGs」と多くの共通点があり、当金庫は長年にわたりSDGsと関連のある活動を展開してきています。

当金庫では、「SDGs」達成に向け、次の取組みを推進しています。

1. 持続可能な地域経済の発展への取組み
2. 持続可能な地域社会の発展への取組み
3. 環境保全への取組み
4. 人材育成と働きがい向上の取組み

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs:2015年9月に国連で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中に掲げられている17の「持続可能な開発目標(ゴール)」のことです。世界全体の「経済」「社会」および「環境」の三側面を、不可分のものとして調和させ、誰一人取り残すことなく、貧困・格差の撲滅等、持続可能な世界を実現するため、統合的に取り組もうとするもので、国際社会の普遍的な目標として位置付けられています。

経営理念

昭和信用金庫は、創業の理念である「相互扶助」「共存共栄」の精神のもと、
第一に、お取引先のご繁栄を願い誠意を尽くします。
第二に、地域社会の発展に貢献いたします。
第三に、調和のある健全経営を目指します。

金庫の基本方針

国民大衆の皆さまから、常に親しまれる金融機関として、地域経済の発展に貢献することを念願として、

1. お客さまに親切に利益と繁栄を
2. 健全かつ積極的な経営を
3. 金庫に働くものに明朗な職場と安定した待遇をモットーとして業務を推進する。

長期経営戦略のビジョン (平成27年度～)

お客さまとのFace to Faceによるリレーションを強化し、経営理念の下、顧客の課題解決に向けて情熱を持ち一緒になって考えることができる信用金庫人を長期的に育成し、身近な相談相手として寄り添える「地域になくてはならない金融機関」を目指す。

中期経営計画 (令和3年度～5年度)

「お客さまの役に立つ」
～新たな社会環境における
「変わらぬお客さまとの長期的関係構築」への
取り組み～

目標

昭和信用金庫は、令和3年度から始まる3年間で新たな中期経営計画年度とし、あらためて「お客さまの役に立つ」の実現に取り組む。

戦略目標

1. 「お客さまの役に立つ」と「お客さまとの長期的な関係構築」の実現
 - (1) 「お客さまの役に立つ」具体的な活動に取り組む。
 - (2) お客さまとの長期的な関係を構築する。
 - (3) 「お客さまの役に立つ」態勢を整備する。
2. 経営の持続可能性の向上
 - (1) 収益の確保と効率性の向上に取り組む。
 - (2) 様々なリスクに備える。
 - (3) 態勢を整備する。
 - (4) 企業市民としての社会的責任を全うする。

目次

| | |
|-------------------------------------|----|
| 皆さまへのメッセージ | 3 |
| 大好きな街応援します | 5 |
| ■金融円滑化への取り組み | 5 |
| ■創業・新事業支援への取り組み | 6 |
| ■お客さまの経営課題解決の支援 | 7 |
| ■お客さまとともに | 9 |
| ■地域社会とともに/ 働きやすい職場づくり | 11 |
| ■あゆみ | 12 |
| 令和4年度の業績 | 13 |
| 内部管理態勢 | 15 |
| ■リスク管理 | 15 |
| ■コンプライアンス(法令等遵守) | 16 |
| ■マネー・ローンダリングおよび テロ資金供与等の防止への取り組み | 16 |
| ■お客さま保護の方針と態勢 | 17 |
| 総代会制度 | 19 |
| 経営組織 | 21 |
| 営業のご案内 | 23 |
| 計数資料 | 26 |
| 開示項目一覧 | 51 |
| 店舗ネットワーク | 52 |

- 本誌は、信用金庫法第89条(銀行法第21条準用)に基づいて作成したディスクロージャー資料です。
- 記載している計数は、金額は単位未満を、%は小数点第3位を切捨てて表示しています。

昭和信用金庫の概要

創立：昭和7年12月17日
純資産：244億564万円
出資金：12億6,435万円
会員数：22,089名
本店所在地：世田谷区北沢1丁目38番14号
預金：4,615億2,117万円
貸出金：2,168億1,897万円
店舗数：本支店19店舗、店外ATMコーナー2か所
役員職員数：286名
営業地区：東京都23区、調布市、三鷹市、狛江市、国立市、日野市、府中市、稲城市、武蔵野市、多摩市、西東京市、小金井市、国分寺市、小平市、立川市、東久留米市、および神奈川県川崎市多摩区・麻生区
(令和5年3月31日現在)



はじめに

平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

皆さまにおかれましては、コロナ禍の影響も残る中、ご苦勞も多いことと拝察しております。

このたび、令和4年度の経営内容や事業活動をご報告する『昭和信用金庫の現況2023』を作成いたしました。是非お読みいただき、当金庫への一層のご理解をいただければ幸甚です。

当金庫を取り巻く経営環境

日本経済は、一部に弱さが見られるものの、緩やかに持ち直しているとされています。感染症の影響に伴う行動制限などが解除され、海外からの旅行者も戻りつつある中で、景気の回復が期待されます。ただし、円安やエネルギー価格の高騰による物価の上昇、人手不足の影響などを受け、中小企業の経営環境は引き続き厳しいものとなっています。また、世界的な金融引締めの影響により、海外景気の下振れリスクがあり、日本経済に影響を及ぼす可能性もあります。

わが国の金融政策に目を向けますと、従前から日本銀行が強力な金融緩和政策を進めています。消費者物価指数は、歴史的な高水準で推移していますが、基調的な物価の動きには引き続き弱さが見られることから、本格的な金融政策の変更には時間がかかるものと推測されます。貸出金利は、低水準での推移が避けられず、信用コストの増加も見込まれることから、金融機関の経営環境については、厳しい状況が続くものと想定されます。

このような状況下ではありますが、信用金庫は地域経済を支えるインフラとしての役割を担っており、その機能を継続的に発揮していくため、引き続き収益基盤の強化に努めてまいります。

令和4年度の業績

令和4年度の業績につきましては、預金残高は4,615億円と前期比35億円増加、貸出金残高は2,168億円と前期比97億円の増加となりました。当金庫の営業エリア内での再開発などによる活発な資金需要に応じた結果、貸出金が伸長し、収益面でも経常利益が増益となりました。また、前述の再開発に伴って移転した店舗不動産の売却などもあり、当期純利益も増益となっています。

中期経営計画を推進

当金庫では、令和3年度から中期経営計画「お客さまの役に立つ」～新たな社会環境における「変わらぬお客さまとの長期的関係構築」への取組み～を掲げ、地域のお客さまの課題解決に資する活動に取り組んでいます。計画は2年目を終了し、取組みの成果として貸出金や本業による収益の増加につながっています。

展望

令和5年度は、中期経営計画の最終年度となります。「ウィズコロナ」の時代を迎えるにあたり、新たな対応を求められるお客さまも多くなることが予想され、課題解決のための「お客さまの役に立つ」活動をさらに推進してまいります。

おかげさまをもちまして昭和信用金庫は、令和4年12月に90周年を迎えることができました。これまで変わらずに受け継いできた創業の理念である「相互扶助」「共存共栄」の精神のもと、地域社会と当金庫がともに発展して100周年を迎えられるよう、決意を新たにしております。

令和5年7月 理事長

内藤 博